

西協市の「通いの場」に関する評価分析結果

R5一般介護予防事業評価事業

～R4「健幸とくらしの調査」及び拡大調査を踏まえて～

<受託者>

- ・トーテックアムニティ(株)大阪事業所
- ・6,072,000円(随契)
- ・契約日:5.7.14
- ・完了日:6.3.29

令和6年3月

西協市、千葉大学予防医学センター、
日本老年学的評価研究機構(JASES)



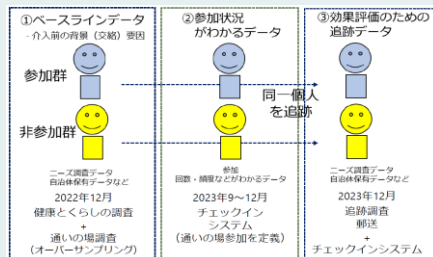
1 本調査の目的

本市の「通いの場」について、R6以降の介護予防事業の戦略的な展開につなげることを目的として、多角的な評価・分析を行う。特に、以下の観点に着目する。

- ・「通いの場」参加による介護予防効果
- ・「通いの場」参加形態(分類別)による効果差

2 調査対象(2,500人中1,108人)

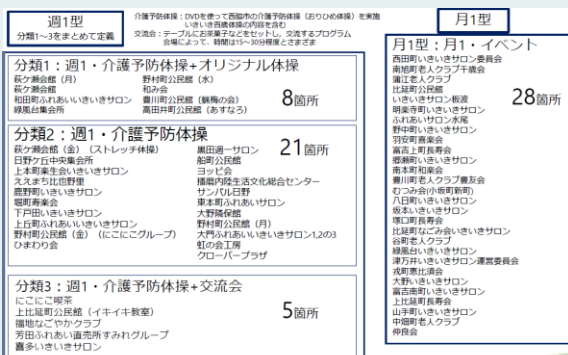
「通いの場」参加者とは非参加者を1年間追跡して比較



1,534人 > 1,140人 > 1,108人

3 「通いの場」の類型化

いきいきサロン、元気応援カフェ、萩ヶ瀬会館サロン、おひめ体操自主グループをそれぞれ類型化



4 調査方法とスケジュール

タブレットで手軽に入力できる「チェックインシステム(CIS)」等を活用し、活動内容・出席状況・アンケート調査を実施した。

7月 操作研修
9月 CIS活用開始
12月 アンケート調査

5 評価分析結果

① 参加者は、地域への信頼・愛着が強く、幸福感高め。
主観的健康感が良好で、うつが少ない。

② 「通いの場」への参加は介護予防効果あり。

1人当たりの介護給付費は6年間で▲17.3万円(参加者500人とする8,650万円の抑制効果)→市負担分(12.5%)は1,081万円分

③ 参加回数が多いほど、笑う機会や明るい気持ちが増え、要介護リスクが下がる。

月1～2回の参加⇒日常生活での楽しみが増える
年30回以上の参加⇒要支援・要介護リスクが下がる

④ 参加形態によって効果は異なる。

月いち型: 日常生活の楽しみが増える

週いち型: 幸福感が高い(幸せ・笑い・明るい気持ち)
要支援・要介護リスクが下がる

だから週いち型への移行を推進する

6 非参加者の傾向

① 市の健康施策の認知度: 86.0%

② 参加しない理由(1位): 「興味がない、参加する必要がある」49.0%
→しかし、そのうち44.6%が「フレイル・フレイル」

③ 参加したい取組(1位): 体操 16.1%

「健幸都市・にしわき」における「通いの場」の位置関係

